

子ども食堂から、地域のつながりへ

開催日時：2018年1月31日（水） 10:00～12:00
会場：エル・ソフィア（男女参画プラザ）
3階第1学習室〈足立区梅田 7-33-1〉
主催：足立区まちづくり「みまもりたい」
〈コープみらい・パルシステム東京・東都生協・
東京ほくと医療生協・東京ふれあい医療生協・東京都生協連〉
後援：足立区社会福祉協議会
参加人数：78名（講師、スタッフ含む）



◇司会◇
清水 紀子さん
(コープみらいブロック委員)



◇開会あいさつ◇

水越 雅子さん(パルシステム東京組合員)



日本では6人に1人という子どもの貧困状況がある。貧困には連鎖の恐れがあることがすでに分かっている、この問題の解決に向けて、まずは現状を知り、どう向き合っていくべきかを皆さんと考えあえる会にしましょう。

講演①

足立区における

子どもたちの『生き抜く力』 を育む取り組み

足立区社会福祉協議会 基幹地域包括支援センター
地域福祉課 花本 洋子さん



足立区では、子どもがいる貧困家庭率が国平均の2倍を上回っています。また、高校退学率が東京23区で突出している実態は負の連鎖とみて区としても大きな課題と捉えています。平成27年度に全庁を挙げた取り組みとして『～未来へつなぐ あだちプロジェクト～』を策定し、足立区のすべての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指し取り組んでいます。それに関連して行った『子どもの健康・生活実態調査』からは、朝食に始まる子どもの成長に欠かすことのできない毎日の食事、また子どもに限らず保護者にとって相談する相手がいること、そして子どもが地域活動に参加することの重要性が見えてきました。現在展開している子どもの居場所は様々あるが、強い子どもを育てるためには地域の力が必要であり、足立区社会福祉協議会ではその地域の支えあい活動を引き続き応援していきます。

ポイント！

花本さんと宮本さんからの共通メッセージ（足立区～未来へつなぐあだちプロジェクト～より）
子どもの明るい未来のため みなさんへの3つのお願い

- 1.こちらから声をかけてください(顔の見える関係・孤立させない)
- 2.子どもを褒めてあげてください(認める・自己肯定感を育む)
- 3.皆さんが健康でいてください(ロールモデル・健康の大切さを伝える)

講演②



～足立区NPO活動支援センター登録団体～
いしかポケットの会 宮本 明彦 さん



自身のお子さんが小学生の時、実際に『子どもの健康・生活実態調査』に関わった経験があり、PTA会長を務めながら研修で実態を知ることとなった。また、日頃教職員や子どもたちと接する機会の多いPTA役員や放課後子ども教室安全管理スタッフなどから生の話をきくことで、何かできることはないだろうかと思いスタートしたのが『いしか食堂』。平成29年2月に開催した1回目のプレオープンは、本当に子どもが集まってくるのか大きな不安を抱えていたが、中学生2名を含む子ども15人と大人25人計40名が参加した。保護者からは、「末っ子が発熱し、病院に連れていったりで手はなせなかったので、上の子を送り出した。食事の用意ができなかったのでとても助かった。」と感謝され、とても嬉しかった。会を重ねるごとに多くの協力者が現れ、ライオン(株)による手洗い・歯磨き講座、絵の先生、地域の中学生ボランティア、小学校保護者、地域住民へとどんどん広がっている。ここには、近くで学習支援を受けている中高生と学生ボランティアも訪れ、毎回楽しい時間を過ごしている。ボランティアスタッフが日々工夫を凝らしながら考えるメニューの食材は、主にセカンドハーベストジャパンを始め地域の市場からの提供にとっても助けられている。工夫しているのはメニューだけでなく、ここへやってくる子どもたちにとって温もりある居場所になるようにと、ボランティアの皆さんが得意分野を活かして手作りの暖簾を作ったり、かわいく部屋を飾り付けたりしてくれている。学校からは、「夏休み明けにグッソリ痩せて登校してくる生徒がいる、そんな子どもたちのために夏休みにランチをやってもらえないか」といった要望があり、それにも応えた。今後は高齢者とも触れ合う機会を増やし、多世代交流の場も展開していきたい。いくつか課題を抱えながらも、大きな夢は『ビル1棟』借りること！

感想交流タイム



お二人の講演を聞いた後、6名1組になって行った感想交流タイムでは、地域で何かやりたいと思っ
ていてもどう動けばよいのか分からない、また場所の提供や調理などは可能だが、動ける人間を集めるにはどうすればよいのか…など、会場内は熱い想いのある方同士の交流で会場は熱気に包まれました。宮本さんからは、この日参加していた足立区NPO活動支援センター(センター長もまた宮本さん!)が相談にのってくれるという回答があり、参加者が今後実際活動する為の良いヒントとなりました。

◇閉会あいさつ◇

一石 健司さん
(東京ふれあい医療生協職員)



地域のつながりで子どもたちを見守っていくことが大切だ。『ポストの数だけ子ども食堂のような居場所』ができていくような地域づくりを進めていきたい。

参加者の声

- ・自分が住む足立区の子どもの状況と課題、それに関する取り組みを詳しく知ることができた。
- ・自分もお手伝いできるタイミングがあれば何か力になりたいと思った。
- ・講師からの3つの願いはすぐにでもできることだ、積極的にやっていきたい。
- ・子ども食堂に限らず様々な団体が地域でつながっていくことが大事だと感じた。
- ・貧困・就学・食が深く関わりあっていることを強く感じた。貧困の連鎖を食い止める施策に期待したい。

～学習会を終えて～

この日は、地域の方をはじめ、行政、社協、NPO活動支援センター、企業など多方面からの参加がありました。どの人も地域が抱える課題にすでに取り組んでいたりと、今後何かできることがあったら積極的にやってみたいという方ばかりでした。参加者同士がこの会場で出会い、つながりに結び付ききっかけとなったこの学習会を機に、今後さらに多くの人々の力で地域づくりを進めていきたいと思ひます。